

教会の将来



北九州地区司祭集会の話し合いの中で、ある神父様が次のようなことを発言されたんです。

教会を支えてきた高齢者の人たちは、何か呼びかければ来てくれる、集まってくれる。しかし、若い世代はそうはいかない。呼びかけても来ない。大変だろうけど時間・労力をかけて、何とかして若い人たちを教会に定着させないと、現在、教会を支えている中高年層がいなくなったら、それとともに教会も消失するんじゃないか？

「その可能性は高いかも」なんて思うんですが・・・でも、具体的にどう対処すべきでしょうか？自分でも、よくわからないんです。

今、特に悩んでいるのが、教会学校担当者の高齢化と後継者不在の問題。教会学校のスタッフ会議に参加しているメンバー（行橋6名・豊津1名）の平均年齢は、なんと60歳ぐらい。最年少は、主任司祭のこの私（今年、年男です）。スタッフのほとんどが、

自分の子どもたちが教会学校に参加していた頃からスタッフを務め始めたが、若い世代のお母さんたちの中からスタッフの引き受け手がなく、結局ず～っとスタッフとして働かざるを得なかった

と漏らしておりました。これまで私が見て来た各教会も、程度の差こそあれ、同じような悩みを抱えています。

「後継者の養成」については、たびたび指摘された事柄ではありますが、そもそも後継者（担当の引き受け手）がいなければ、「どう養成すべきか？」なんて議論しても意味がない。



今どきの働き盛りの比較的若い親たちが忙しいのは知っています。変則的な勤務時間の職種も増えてきている。土・日に仕事の人も珍しくない。土・日であれ、子どもの学校行事・部活・塾通い・お稽古事等に付き合わなければならない。配偶者やその親御さんは信者ではなく、ミサに参加しづらい。

教会なんて、たまにしか行けない。行かなくなっちゃって、別になんてことない。行くのが面倒くさい。子どもに要理を教えるなんて難しそう。教会行っても面白くないし・・・。察するに、彼らの正直な思いは、こんなところでしょうか？

また、ひと昔前と比べて、子どもの数自体が激減。しかも、その少ない子どもたちが、なかなかミサや教会学校に参加しない。ゆゆしき問題です。

魔法の杖はありません。どうしたらいいんでしょう？大きな課題を突き付けられています。神に感謝。